



背景・目的

アジア水環境パートナーシップ事業 (WEPA) は、第3回世界水フォーラム(H15)で環境省が提唱した取組。

東アジア地域13カ国の行政官の参加のもと、当該地域の水環境ガバナンス強化を目指す。第Ⅲ期 (H26～) では第Ⅰ期、第Ⅱ期の活動を引き継ぎつつ、各国のより具体的な課題の解決に向けた経験共有のための活動 (アクションプログラム) 支援を実施中。

事業概要

1. 各国の課題に応じたアクションプログラム (以下、AP) を作成し、自ら実施していくことを支援。
 - 第Ⅱ期までの知見を活用し、各国で自らAPが作成できるよう作成支援
 - AP作成作業を通じ、各国ステークホルダーの課題発見・解決能力の構築を図る
 - 作成したAPに基づき各種支援プログラムを実施
分散型生活排水処理改善 (カンボジア)
2. 年次会合、ワークショップ、データベース等を通じた参加国間の知見の共有・意見交換
3. ネットワーク強化に向けた国際機関等との連携
4. 国際水協会 (IWA) 世界会議・展示会における情報発信
5. これまでの成果をとりまとめ、第Ⅳ期の活動方針を決定 等

事業目的・概要等

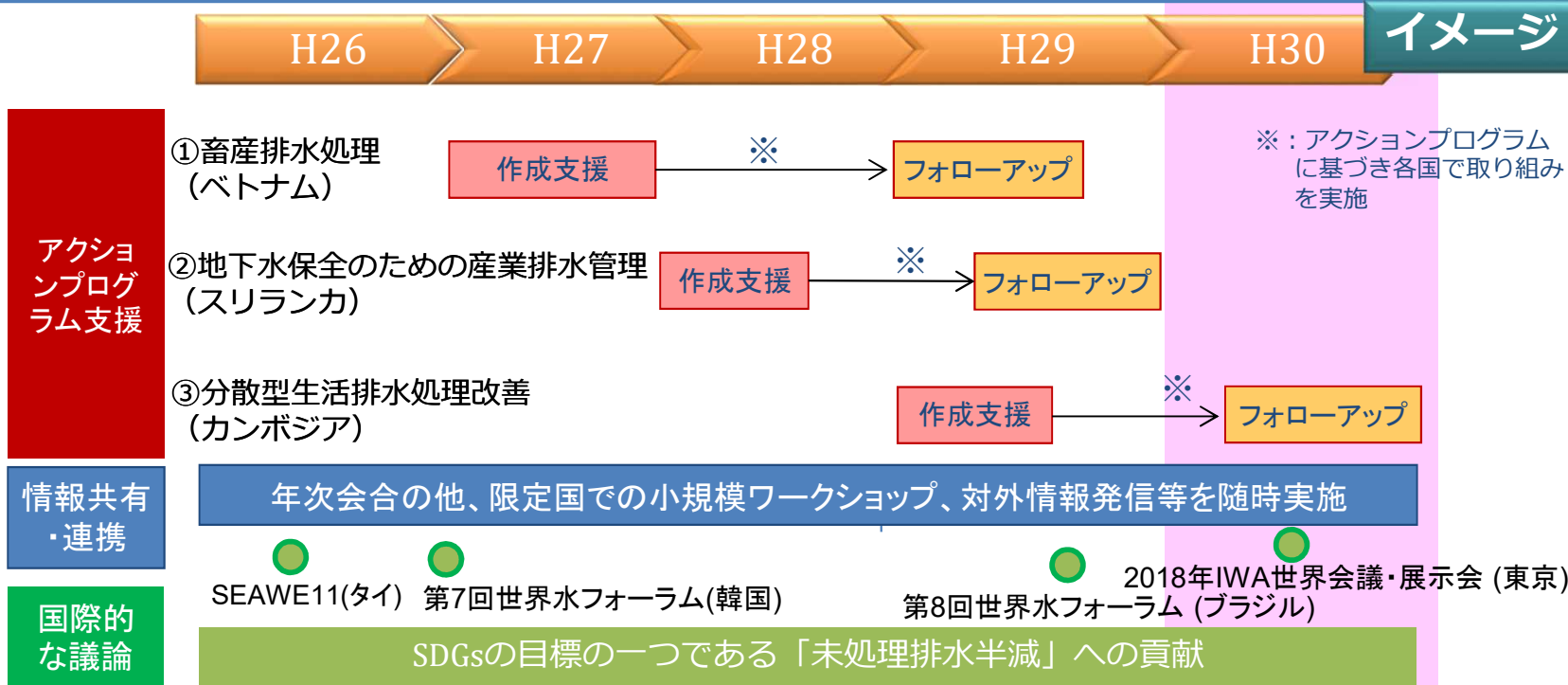
期待される効果

SDGs (持続可能な開発目標) 達成に向けた各国の排水管理・水環境改善に貢献するとともに、我が国企業が国際展開にあたって支障となる制度面での問題点を解消し、インフラビジネスの海外展開に大きく貢献することが期待される。



パートナー国 (13カ国)

カンボジア、中国、インドネシア、韓国、ラオス、ミャンマー、タイ、マレーシア、フィリピン、ベトナム、ネパール、スリランカ、日本



アクションプログラム支援

情報共有・連携

国際的な議論